

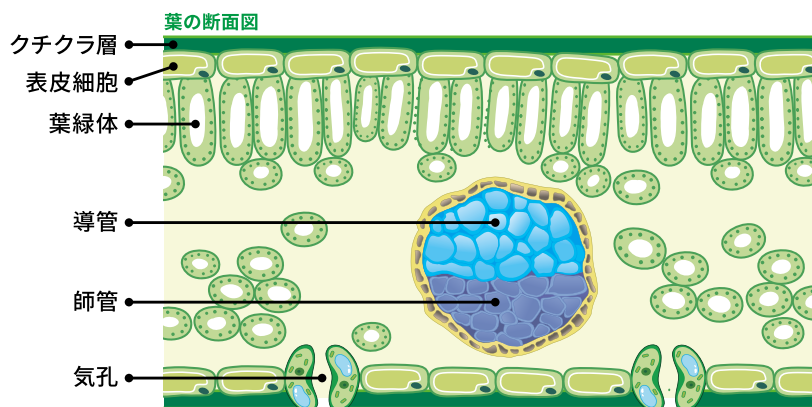
シグネチャーWDG(ホセチル)の抵抗性誘導ってなに？

そもそも、植物が持っている病害抵抗性とは？

植物が持っている病害に対する防御機構は3段階

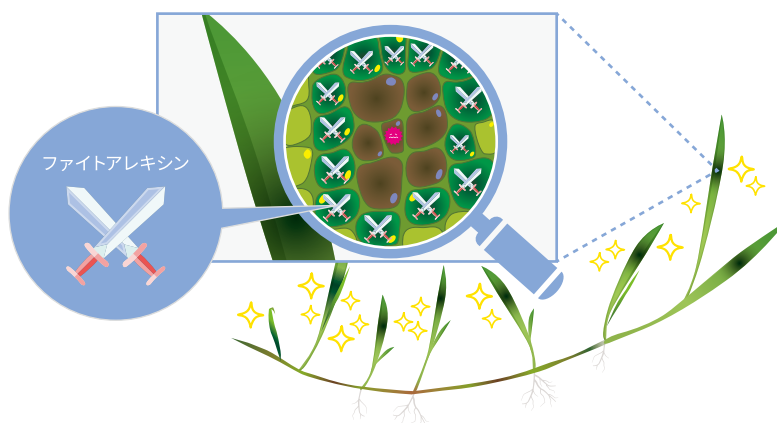
① 静的抵抗性

クチクラ層、表皮細胞、細胞壁などによって病原菌の侵入を防ぐ



② 局所的誘導抵抗性 (過敏感反応)

病原菌侵入箇所周辺の細胞を敢えて壊死させることによって、病原菌のさらなる侵入を防ぐ。合わせて、ファイトアレキシンと呼ばれるような様々な抵抗性物質(抗菌物質)を生成する。

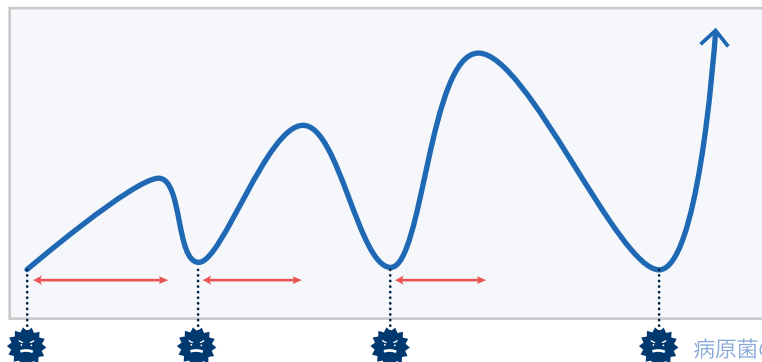


③ 全身的誘導抵抗性

局所的誘導抵抗性によって細胞が壊死すると、植物ホルモンの一種であるサリチル酸が合成される。サリチル酸はシグナル物質として働いて、植物全体で抵抗性物質(抗菌物質)が生成されたり、細胞壁が分厚くなったりする。1か所の病原菌侵入がきっかけとなって、他の部位における病害抵抗性が高まる。なお、この際に誘導させる病害抵抗性は、初めに感染した病原体だけでなく多種多様な病原体の感染に対しても防御効果を期待できる。



病原菌に対する抵抗力



局部的または全身的誘導抵抗性は、一般的に、病原菌に侵入されるたびに、病原菌に対する抵抗力は高くなり、病原菌に対する反応スピードも早くなる。

抵抗性誘導を持っている殺菌剤の多くはサリチル酸に関与している

サリチル酸シグナル伝達経路を活性化したり、疑似サリチル酸として働いたりして、植物全体のファイトアレキシンなどの生産を高め、細胞壁を分厚くするなどして病害抵抗性を高める

シグネチャーWDG(有効成分ホセチル)の抵抗性誘導は？

実は、そのメカニズムはまだよく分かっていないが、以下のことは分かっている

1.ファイトアレキシンと呼ばれる抵抗性物質(抗菌物質)を生成する

病害に感染する前に、
全身的抵抗誘導性を
獲得した状態にしておく！

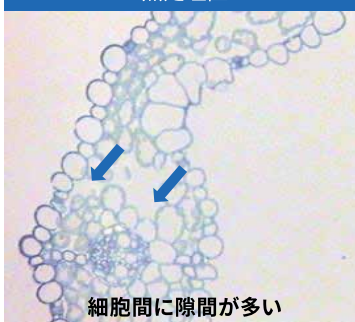


2.植物の細胞壁を強化する

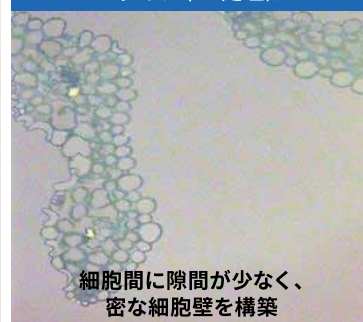
シグネチャーの日陰(ストレス)
における芝の反応

オハイオ州立大学データより

無処理区



シグネチャー処理区



シグネチャーWDG(ホセチル)による
抵抗性誘導を十分に発揮させるには

シグネチャー®
WDG

- ・初夏から盛夏にかけて、繰り返し使用する
- ・梅雨までに3回、梅雨明けまでにさらに2回、つまり盛夏までに計5回は散布しておくことを推奨
- ・散布水量は100mL/m²を推奨。できるだけ葉に付着させる

envu™



LINE
公式アカウント

タイムリーな芝草管理情報を配信中！

- 1 LINEの「ホーム」から右上のアイコンをタップ
- 2 右記のQRコードを読み取って、友だち追加！

